

セキュアネットワーク符号化アルゴリズム

— 条件付き正則行列の構成アルゴリズム (I) —

栗原正純 (電気通信大学)

1. 概要 (関連研究、目的、計算量 $O(h^3 M)$, $O(h^2 L)$)
2. (強いランプ型) 秘密分散符号化法 ([山本, 1985])
3. セキュアネットワーク符号化アルゴリズムの概要
4. 結論

2006/11/28~12/01(SITA2006 HAKODATE)

(2006/11/30/22:41 作成日)

- セキュアなネットワーク符号化 (理論的条件設定)

- N. Cai and R. W. Yeung, “Secure network coding”, 2002
- J. Feldman, *et. al.*, “On the capacity of secure network coding”, 2004
- K. Bhattad, K. R. Narayanan, “Weakly secure network coding”, 2005
- 原田邦彦, 山本博資, “強いランプ型しきい値特性を持つ安全なネットワーク符号化法”, 2005
- 原田邦彦, 山本博資, “線形ネットワーク符号化に対する強いランプ型秘密分散法”, 2006

- (強い)(ランプ型) 秘密分散符号化法に基づく安全性 (\Leftarrow セキュアなネットワーク符号化)

- 山本博資, “ (k, L, n) しきい値秘密分散システム”, 1985

- 本稿の目的

- セキュアネットワーク符号化のアルゴリズムを具体的に提示する

与えられた ネットワーク符号化 \Rightarrow (強いランプ型の) セキュアなネットワーク符号化

- 計算量の評価

セキュアネットワーク符号化アルゴリズム

- 与えられたネットワーク符号化を

(強いランブ型の) セキュアネットワーク符号化に 変換する 方法

- 具体的には、与えられた盗聴条件 \mathcal{G} に対し、

(強いランブ型) 秘密分散符号化の条件を満たす 変換行列 F を構成する方法

条件付き正則行列 : $h \times h$ 行列 $F = [\mathbf{f}_1, \mathbf{f}_2, \mathbf{f}_3, \dots, \mathbf{f}_h]$

- 符号化を行なう有限体 \mathbb{F}_q のサイズが、 $|\mathbb{F}_q| = q > 2M$ を満たすとき、

時間計算量 : $O(h^3 M)$ ($\approx O(h^2 M) \times O(h)$)

領域計算量 : $O(h^2 L)$

- S.Jaggi, *et. al.*, “Polynomial time algorithms for multicast network code construction,” 2005

- M, L は、盗聴条件 \mathcal{G} に依存して定まる値。 ($\implies h, L, M$ の値の内容を説明する)

- \boxed{h} : h 次元情報ベクトル

$$(S^{h-r} R^r) = (\underbrace{S_1, \dots, S_{h-r}}_{\text{情報シンボル}}, \underbrace{R_1, \dots, R_r}_{\text{乱数}}) \in \mathbf{F}_q^h$$

- 符号化 : 符号シンボル (符号語) W

任意の (リンク) ベクトル $\mathbf{g} \in \mathbf{F}_q^h$ に対し、

$$W(\mathbf{g}) = (S^{h-r} R^r) F^{-1} \mathbf{g}$$

ただし、 F は $h \times h$ の (条件付き) 正則行列 : $F = [\mathbf{f}_1, \dots, \mathbf{f}_h]$

- 復号化 :

正則行列 \boxed{F} と 線型独立な任意の \underline{h} 個の $\boxed{\mathbf{g}_1, \dots, \mathbf{g}_h}$ と

それらで定まる \underline{h} 個の $\boxed{W(\mathbf{g}_1), \dots, W(\mathbf{g}_h)}$ という取得情報から、

情報ベクトルは、以下のように求まる。

$$(S^{h-r} R^r) = (W(\mathbf{g}_1), \dots, W(\mathbf{g}_h)) [\mathbf{g}_1, \dots, \mathbf{g}_h]^{-1} F$$

● 盗聴条件 \mathcal{G}

○ 盗聴パターン G_ℓ

盗聴される r_ℓ 本 ($< h$) のリンクに付随するリンクベクトル $\mathbf{g}_{\ell,i}$ の集合

$$G_\ell = \{\mathbf{g}_{\ell,1}, \dots, \mathbf{g}_{\ell,r_\ell}\} \subset \mathbf{F}_q^h \text{ s.t. } \text{rank}[\mathbf{g}_{\ell,1}, \dots, \mathbf{g}_{\ell,r_\ell}] = r_\ell < h$$

$$W_{\ell,i} = W(\mathbf{g}_{\ell,i}) = (S^{h-r} R^r) F^{-1} \mathbf{g}_{\ell,i}, \quad i = 1, \dots, r_\ell$$

○ 全体で N 通り の盗聴パターンを考える。

$$\mathcal{G} = \{G_1, \dots, G_N\}$$

- (強いランブ型) 秘密分散符号化の条件

盗聴条件 \mathcal{G} に対し、条件付き正則行列 $F = [\mathbf{f}_1, \dots, \mathbf{f}_{h-r} | \dots, \mathbf{f}_h]$ は以下を満たす。

任意の盗聴パターン $G_\ell = \{\mathbf{g}_{\ell,1}, \dots, \mathbf{g}_{\ell,r_\ell}\} \in \mathcal{G} = \{G_1, \dots, G_N\}$ と

任意の $\mathbf{f}_{i_1}, \dots, \mathbf{f}_{i_{h-r_\ell}} \in \{\mathbf{f}_1, \dots, \mathbf{f}_{h-r}\}$ に対して、

$h \times h$ 行列 $Y_\ell^{(k)} := [\mathbf{f}_{i_1}, \dots, \mathbf{f}_{i_{h-r_\ell}} | \mathbf{g}_{\ell,1}, \dots, \mathbf{g}_{\ell,r_\ell}]$ が正則になる。

ただし、 $r_\ell \geq r$.

- 安全性

任意の盗聴パターン $G_\ell \in \mathcal{G}$ より得られる符号シンボル $W_{\ell,1}, \dots, W_{\ell,r_\ell}$ と

任意の情報シンボル $S_{i_1}, \dots, S_{i_{h-r_\ell}} \in \{S_1, \dots, S_{h-r}\}$ に対して、

$H(S_{i_1}, \dots, S_{i_{h-r_\ell}} | W_{\ell,1}, \dots, W_{\ell,r_\ell}) = H(S_{i_1}, \dots, S_{i_{h-r_\ell}})$

が成り立つ。ただし、 $r_\ell \geq r$.

- L : 盗聴条件 \mathcal{G} に対し、条件付き正則行列 F を構成するために考慮する行列の総数

$$Y_\ell^{(k)} = \left[\mathbf{f}_{i_1}, \dots, \mathbf{f}_{i_{h-r_\ell}} \mid \mathbf{g}_{\ell,1}, \dots, \mathbf{g}_{\ell,r_\ell} \right]$$

- 各 $\ell = 1, \dots, N$ に対し、

$\underbrace{\mathbf{f}_1, \dots, \mathbf{f}_{h-r}}_{h-r}$ の中から $\underbrace{\mathbf{f}_{i_1}, \dots, \mathbf{f}_{i_{h-r_\ell}}}_{h-r_\ell}$ を取り出す組合せ数を、

$$d_\ell = \binom{h-r}{h-r_\ell}$$

とする。ただし、 $r_\ell \geq r$ 。

- すべての $\ell = 1, \dots, N$ と 行列 F 自身も含めた、

F を構成するために考慮すべき行列の総数を、

$$L = \sum_{\ell=1}^N d_\ell + 1$$

とする。(盗聴条件 \mathcal{G} に依存して定まる値)

- \boxed{M} : $\mathbf{f}_1, \mathbf{f}_2, \dots, \mathbf{f}_{h-r}$ の中のある \mathbf{f}_m のみに着目したとき、

L 個の全部の行列の中で \mathbf{f}_m を含む行列の総数 ($M \leq L$)

$$Y_\ell^{(k)} = \left[\mathbf{f}_{i_1}, \dots, \mathbf{f}_m, \dots, \mathbf{f}_{i_{h-r_\ell}} \mid \mathbf{g}_{\ell,1}, \dots, \mathbf{g}_{\ell,r_\ell} \right]$$

- 各 $\ell = 1, \dots, N$ に対し、

$\underbrace{\{\mathbf{f}_1, \dots, \mathbf{f}_{h-r}\} \setminus \{\mathbf{f}_m\}}_{h-r-1}$ の中から $h - r_\ell - 1$ 個を取り出す組合せ数を、

$$D_\ell = \binom{h-r-1}{h-r_\ell-1}$$

とする。ただし、 $r_\ell \geq r$ 。

- すべての $\ell = 1, \dots, N$ と 行列 F 自身も含めた、 \mathbf{f}_m を含む行列の総数を、

$$M = \sum_{\ell=1}^N D_\ell + 1$$

とする。(盗聴条件 \mathcal{G} に依存して定まる値)

- 一般に、 $\boxed{N \leq M \leq L}$ が成り立つ。

セキュアネットワーク符号化アルゴリズム

- 与えられた盗聴条件 $\mathcal{G} = \{G_1, \dots, G_N\}$ に対し、条件付き正則行列

$$F = [\mathbf{f}_1, \dots, \mathbf{f}_m, \dots, \mathbf{f}_{h-r} \mid \mathbf{f}_{h-r+1}, \dots, \mathbf{f}_h]$$

は、以下の計算量で求まる。

符号化を行なう有限体 \mathbb{F}_q のサイズが、 $|\mathbb{F}_q| = q > 2M$ を満たすとき、

時間計算量 : $O(h^3 M)$ ($\approx O(h^2 M) \times (h - r)$)

領域計算量 : $O(h^2 L)$

ここで、 $N \leq M \leq L$ が成り立つ。

- 準備
- 初期設定
- 前処理：アルゴリズム I
- 本処理：アルゴリズム IIb

「線型独立な列ベクトルを順次追加し、条件を満たす正則行列を構成する」という手法ではなく、
「最初に、適当な正則行列を用意し、その正則性を維持しながら列ベクトルを更新し、条件を満たす正則行列を構成する」という手法をとる。

- 準備 : L 個の $h \times h$ 正則行列 $Y_\ell^{(k)}$ を準備する。(領域計算量 $O(h^2 L)$)

○ $L - 1$ 個の $\ell = 1, \dots, N$, $k = 1, \dots, d_\ell$ に対し、

$$Y_\ell^{(k)} = [\mathbf{y}_{\ell,1}^{(k)}, \dots, \mathbf{y}_{\ell,h}^{(k)}] \left(= \left[\mathbf{f}_{i_1^{(k)}}, \dots, \mathbf{f}_{i_{h-r_\ell}^{(k)}} \mid \mathbf{g}_{\ell,1}, \dots, \mathbf{g}_{\ell,r_\ell} \right] \right)$$

○ 条件付き正則行列 F : $\ell = N + 1$, $k = 1 (= d_{N+1})$ に対し、

$$Y_{N+1}^{(1)} = [\mathbf{y}_{N+1,1}^{(1)}, \dots, \mathbf{y}_{N+1,h}^{(1)}] (= [\mathbf{f}_1, \dots, \mathbf{f}_{h-r} \mid \mathbf{f}_{h-r+1}, \dots, \mathbf{f}_h] = F)$$

- 初期設定 : L 個の正則行列 $Y_\ell^{(k)}$ を以下のように初期設定する。

$\ell = 1, \dots, N + 1$, $k = 1, \dots, d_\ell$ に対し、

$$Y_\ell^{(k)} = [\mathbf{y}_{\ell,1}^{(k)}, \dots, \mathbf{y}_{\ell,h-r_\ell}^{(k)} \mid \mathbf{y}_{\ell,-r_\ell+1}^{(k)}, \dots, \mathbf{y}_{\ell,h}^{(k)}] := \begin{bmatrix} 1 & & \mathbf{O} \\ & \ddots & \\ \mathbf{O} & & 1 \end{bmatrix}$$

- 前処理 : (アルゴリズム I (基底構成アルゴリズム))

$L - 1$ 個の正則行列 $Y_\ell^{(k)}$ に 盗聴パターン $G_\ell = \{\mathbf{g}_{\ell,1}, \dots, \mathbf{g}_{\ell,r_\ell}\} \in \mathcal{G}$ を反映させる。

すなわち、 $\ell = 1, \dots, N$, $k = 1, \dots, d_\ell$ に対し、

$$Y_\ell^{(k)} = \left[\mathbf{y}_{\ell,1}^{(k)}, \dots, \mathbf{y}_{\ell,h-r_\ell}^{(k)} \mid \mathbf{y}_{\ell,-r_\ell+1}^{(k)}, \dots, \mathbf{y}_{\ell,h}^{(k)} \right]$$

\Downarrow

$$Y_\ell^{(k)} = \left[\mathbf{y}_{\ell,1}^{(k)}, \dots, \mathbf{y}_{\ell,h-r_\ell}^{(k)} \mid \mathbf{g}_{\ell,1}, \dots, \mathbf{g}_{\ell,r_\ell} \right]$$

- 本処理 : (アルゴリズム IIb) $F = [\mathbf{f}_1, \mathbf{f}_2, \dots, \mathbf{f}_m, \dots, \mathbf{f}_{h-r} \mid \dots, \mathbf{f}_h]$

各 $m = 1, \dots, h - r$ に対し、 \mathbf{f}_m を構成する手続きを繰り返し行なう。

- \mathbf{f}_m に関する M 個の行列 $Y_\ell^{(k)}$:

$$Y_\ell^{(k)} = \left[\dots, \mathbf{y}_{\ell, i_{\ell, m}^{(k)}}^{(k)}, \dots \mid \mathbf{g}_{\ell, 1}, \dots, \mathbf{g}_{\ell, r_\ell} \right], \quad \ell = 1, \dots, N, k \in D_\ell(m)$$

$$Y_{N+1}^{(1)} = \left[\dots, \mathbf{y}_{\ell, i_{N+1, m}^{(1)}}^{(k)}, \dots \mid \mathbf{f}_{h-r+1}, \dots, \mathbf{f}_h \right] (= F), \quad \ell = N + 1$$

- M 個の乱数 $\alpha_\ell^{(k)} \in \mathbf{F}_q$ を用いて、 \mathbf{f}_m の候補を構成する。 (時間計算量 $O(hM)$)

$$\mathbf{f}_m := \sum_{\ell=1}^{N+1} \sum_{k \in D_\ell(m)} \alpha_\ell^{(k)} \mathbf{y}_{\ell, i_{\ell, m}^{(k)}}^{(k)}$$

- それぞれの行列 $Y_\ell^{(k)}$ の成分 $y_{\ell,i_{\ell,m}}^{(k)}$ を f_m に交換し、

正則かどうかをチェックする。 (時間計算量 $O(hM)$)

$$\begin{aligned} \left[\cdots, y_{\ell,i_{\ell,m}}^{(k)}, \cdots \mid g_{\ell,1}, \cdots, g_{\ell,r_\ell} \right] &\Rightarrow \left[\cdots, f_m, \cdots \mid g_{\ell,1}, \cdots, g_{\ell,r_\ell} \right] \\ \left[\cdots, y_{\ell,i_{\ell,m}}^{(k)}, \cdots \mid f_{h-r+1}, \cdots, f_h \right] &\Rightarrow \left[\cdots, f_m, \cdots \mid f_{h-r+1}, \cdots, f_h \right] \end{aligned}$$

- そして、 M 個すべての行列が正則ならば、「 f_m の構成」に 成功。

$m := m + 1$ とする。

\Rightarrow 時間計算量 $O(h^2M) \times 1$

- 他方、 M 個のすべての行列が正則でないならば、ならば「 f_m の構成」に 失敗。

再度、 f_m の候補を構成する。

\Rightarrow 時間計算量 $O(h^2M) \times (\text{失敗回数})$

- 符号化を行なう有限体 F_q のサイズが、 $|F_q| = q > 2M$ ならば、

「失敗する確率は、 $1/2$ より小さい」ことが言える。 \Rightarrow 時間計算量 $O(h^2M) \times 2$

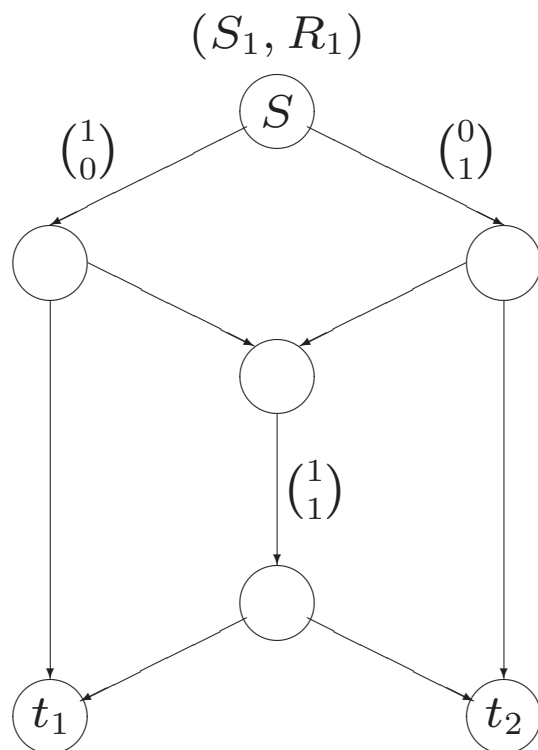
符号化を行なう有限体 F_q のサイズが、 $|F_q| > 2M$ を満たすとき、

時間計算量： $O(h^3 M)$ ($\approx O(h^2 M) \times (h - r)$)

領域計算量： $O(h^2 L)$

をもつ (強いランブ型の) セキュアネットワーク符号化アルゴリズムの概略を説明した。

例：セキュアネットワーク符号化 (しきい値 = 1) (1/2)



- $(S_1, R_1) \in \mathbb{F}_3^2$: 情報ベクトル
 S_1 : 情報シンボル (等確率に生起)
 R_1 : 一様乱数

- $F = \begin{bmatrix} 1 & 0 \\ 0 & 1 \end{bmatrix}$ の場合

$$(S_1, R_1)F^{-1} \begin{pmatrix} 1 \\ 0 \end{pmatrix} = S_1$$

$$(S_1, R_1)F^{-1} \begin{pmatrix} 0 \\ 1 \end{pmatrix} = R_1$$

$$(S_1, R_1)F^{-1} \begin{pmatrix} 1 \\ 1 \end{pmatrix} = S_1 + R_1$$

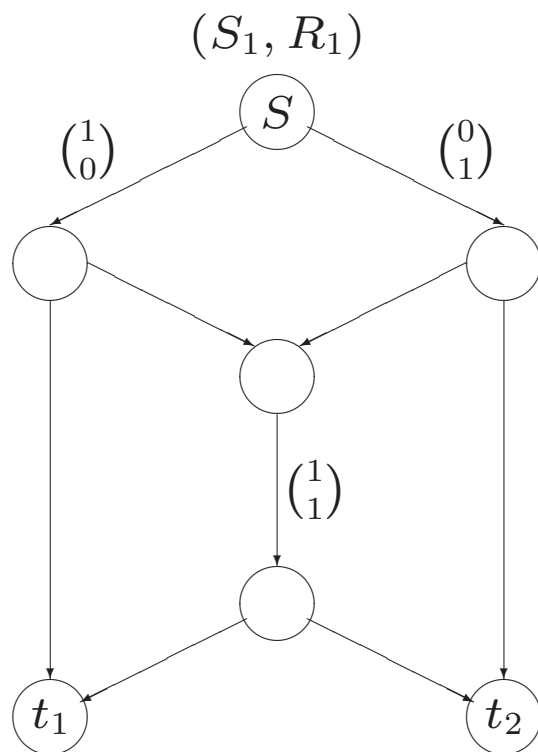
- $F = \begin{bmatrix} 1 & 1 \\ 2 & 0 \end{bmatrix}$ の場合 (セキュア変換行列)

$$(S_1, R_1)F^{-1} \begin{pmatrix} 1 \\ 0 \end{pmatrix} = R_1$$

$$(S_1, R_1)F^{-1} \begin{pmatrix} 0 \\ 1 \end{pmatrix} = 2S_1 + R_1$$

$$(S_1, R_1)F^{-1} \begin{pmatrix} 1 \\ 1 \end{pmatrix} = 2S_1 + 2R_1$$

例：セキュアネットワーク符号化 (しきい値 = 1) (2/2)



- 盗聴パターン G_ℓ , $\ell = 1, 2, 3$

$$G_1 = \left\{ \begin{pmatrix} 1 \\ 0 \end{pmatrix} \right\}$$

$$G_2 = \left\{ \begin{pmatrix} 0 \\ 1 \end{pmatrix} \right\}$$

$$G_3 = \left\{ \begin{pmatrix} 1 \\ 1 \end{pmatrix} \right\}$$

- 盗聴条件 \mathcal{G}

$$\mathcal{G} = \{G_1, G_2, G_3\}$$

- 条件付き正則行列

$$F = [\mathbf{f}_1 \ \mathbf{f}_2] = \begin{bmatrix} 1 & 1 \\ 2 & 0 \end{bmatrix}$$

- 準備 1 : L 個の $h \times h$ 正則行列 $Y_\ell^{(k)}$ を準備する。(領域計算量 $O(h^2 L)$)

○ $L - 1$ 個の $\ell = 1, \dots, N$, $k = 1, \dots, d_\ell$ に対し、

$$Y_\ell^{(k)} = [\mathbf{y}_{\ell,1}^{(k)}, \dots, \mathbf{y}_{\ell,h}^{(k)}] \left(= \left[\mathbf{f}_{i_1^{(k)}}, \dots, \mathbf{f}_{i_{h-r_\ell}^{(k)}} \mid \mathbf{g}_{\ell,1}, \dots, \mathbf{g}_{\ell,r_\ell} \right] \right)$$

○ 条件付き正則行列 F : $\ell = N + 1$, $k = 1 (= d_{N+1})$ に対し、

$$Y_{N+1}^{(1)} = [\mathbf{y}_{N+1,1}^{(1)}, \dots, \mathbf{y}_{N+1,h}^{(1)}] (= [\mathbf{f}_1, \dots, \mathbf{f}_{h-r} \mid \mathbf{f}_{h-r+1}, \dots, \mathbf{f}_h] = F)$$

- 準備 2 : m と ℓ に関する添字集合 $D_\ell(m)$ を準備する。

各 $m = 1, \dots, h - r$ と 各 $\ell = 1, \dots, N + 1$ に対し、

$$D_\ell(m) := \left\{ k \in \{1, \dots, d_\ell\} \mid m \in \{i_1^{(k)}, \dots, i_{h-r_\ell}^{(k)}\} (\subset \{1, \dots, h - r\}) \right\}$$

$$\left(Y_\ell^{(k)} = \left[\mathbf{f}_{i_1^{(k)}}, \dots, \mathbf{f}_m, \dots, \mathbf{f}_{i_{h-r_\ell}^{(k)}} \mid \mathbf{g}_{\ell,1}, \dots, \mathbf{g}_{\ell,r_\ell} \right] \right)$$

$$M = \sum_{\ell=1}^{N+1} |D_\ell(m)| = \sum_{\ell=1}^{N+1} D_\ell. \quad \text{ただし、} D_{N+1} = 1.$$

前処理：アルゴリズム I (基底構成アルゴリズム)

Input : $G = \{\mathbf{g}_1, \mathbf{g}_2, \dots, \mathbf{g}_n\}$

Output: Y , X , and I

Initial: $X = Y := E$, $I := \{1, 2, \dots, h\}$, and $k := 1$.

Step 1) Input: $G = \{\mathbf{g}_1, \mathbf{g}_2, \dots, \mathbf{g}_n\}$.

Step 2) if $\exists j \in I$ such that $(\mathbf{g}_k, \mathbf{x}_j) \neq 0$, then goto 3), else goto 5).

Step 3) for some j such that $(\mathbf{g}_k, \mathbf{x}_j) \neq 0$,

$$\mathbf{y}_j := \mathbf{g}_k$$

$$\mathbf{x}_j := (\mathbf{y}_j, \mathbf{x}_j)^{-1} \mathbf{x}_j$$

$$\mathbf{x}_i := \mathbf{x}_i - (\mathbf{y}_j, \mathbf{x}_i) \mathbf{x}_j \text{ for all } i = 1, \dots, h \text{ s.t. } i \neq j$$

$$I := I \setminus \{j\}$$

Step 4) if $I = \emptyset$, then goto 6), else goto 5).

Step 5) $k := k + 1$. if $k > n$, then goto 6), else goto 2).

Step 6) Output: X , Y , and I and halt.

本処理：アルゴリズム IIb

Input : $X_\ell^{(k)}, Y_\ell^{(k)}, I_\ell^{(k)}$ for all $\ell = 1, \dots, N$ and $k = 1, \dots, d_\ell$

Output : $X_{N+1}^{(1)}, Y_{N+1}^{(1)}, I_{N+1}^{(1)}$

Initial: $h_2 := h - r$, $X_{N+1}^{(1)} = Y_{N+1}^{(1)} := E$, $I_{N+1}^{(1)} := \{1, \dots, h\}$, and $m := 1$.

Step 1) Input: $X_\ell^{(k)}, Y_\ell^{(k)}, I_\ell^{(k)}$ for all $\ell = 1, \dots, N$ and $k = 1, \dots, d_\ell$

Step 2) for each $\ell = 1, \dots, N + 1$ and $k \in D_\ell(m)$,

$$i_\ell^{(k)} = i_{\ell,m}^{(k)} := \min I_\ell^{(k)} \quad (1)$$

Step 3) Choose $\alpha_\ell^{(k)} \in \mathbf{F}_q$ for all $\ell = 1, \dots, N + 1$ and $k \in D_\ell(m)$, and set

$$\mathbf{f} = \mathbf{f}_m := \sum_{\ell=1}^{N+1} \sum_{k \in D_\ell(m)} \alpha_\ell^{(k)} \mathbf{y}_{\ell, i_\ell^{(k)}}^{(k)} \quad (2)$$

Step 4) if $(\mathbf{f}, \mathbf{x}_{\ell, i_\ell^{(k)}}^{(k)}) \neq 0$ for all $\ell = 1, \dots, N + 1$ and $k \in D_\ell(m)$, then goto 5), else goto 3).

Step 5) for each $\ell = 1, \dots, N + 1$ and $k \in D_\ell(m)$,

$$\mathbf{y}_{\ell, i_\ell^{(k)}}^{(k)} := \mathbf{f}$$

$$\mathbf{x}_{\ell, i_\ell^{(k)}}^{(k)} := (\mathbf{y}_{\ell, i_\ell^{(k)}}^{(k)}, \mathbf{x}_{\ell, i_\ell^{(k)}}^{(k)})^{-1} \mathbf{x}_{\ell, i_\ell^{(k)}}^{(k)}$$

$$\mathbf{x}_{\ell, i}^{(k)} := \mathbf{x}_{\ell, i}^{(k)} - (\mathbf{y}_{\ell, i_\ell^{(k)}}^{(k)}, \mathbf{x}_{\ell, i}^{(k)}) \mathbf{x}_{\ell, i_\ell^{(k)}}^{(k)}$$

for all $i = 1, \dots, h$ s.t. $i \neq i_\ell^{(k)}$

$$I_\ell^{(k)} := I_\ell^{(k)} \setminus \{i_\ell^{(k)}\}$$

Step 6) $m := m + 1$. if $m > h_2$, then goto 7), else goto 2).

Step 7) Output: $X_{N+1}^{(1)}$, $Y_{N+1}^{(1)}$, and $I_{N+1}^{(1)}$ and halt.

失敗する確率について (1/5)

- 新しい \mathbf{f}_m に関与する M 個の正則行列 : $\ell = 1, \dots, N+1, \quad k \in D_\ell(m)$

$$Y_\ell^{(k)} = \begin{bmatrix} \cdots & \mathbf{y}_{\ell, i_{\ell, m}^{(k)}}^{(k)} & \cdots \end{bmatrix}$$

- M 個の乱数 $\alpha_\ell^{(k)}$ を用いて、 \mathbf{f}_m の候補を構成する。

$$\mathbf{f}_m := \sum_{\ell=1}^{N+1} \sum_{k \in D_\ell(m)} \alpha_\ell^{(k)} \mathbf{y}_{\ell, i_{\ell, m}^{(k)}}^{(k)}$$

- M 個ある組 (ℓ, k) の中で、失敗した一つの組 $(\ell, k) = (p_1, p_2)$ に着目する。

$$\mathbf{y}_{p_1, i_{p_1, m}^{(p_2)}}^{(p_2)} \implies \mathbf{f}_m$$

$$Y_{p_1}^{(p_2)} = \begin{bmatrix} \cdots & \mathbf{y}_{p_1, i_{p_1, m}^{(p_2)}}^{(p_2)} & \cdots \end{bmatrix} \implies [\cdots \mathbf{f}_m \cdots] : \begin{cases} \text{正則} & : \text{成功} \\ \text{正則でない} & : \boxed{\text{失敗}} \end{cases}$$

失敗する確率について (2/5)

- 失敗 : (p_1, p_2) では、 $[\cdots \mathbf{f}_m \cdots]$ が正則でない。

\mathbf{f}_m は他の $h - 1$ 個の成分ベクトル $\mathbf{y}_{p_1, i}^{(p_2)}$, $i \neq i_{p_1, m}^{(p_2)}$ で表わされる。

$$\mathbf{f}_m = \sum_{\substack{i=1 \\ i \neq i_{p_1, m}^{(p_2)}}}^h \gamma_i \mathbf{y}_{p_1, i}^{(p_2)} \quad (a)$$

ここで、 $\gamma_i \in \mathbf{F}_q$.

失敗する確率について (3/5)

- 一方、構成した \mathbf{f}_m から (p_1, p_2) の項を抜き出す。

$$\begin{aligned}\mathbf{f}_m &= \sum_{\ell=1}^{N+1} \sum_{k \in D_\ell(m)} \alpha_\ell^{(k)} \mathbf{y}_{\ell, i_{\ell, m}}^{(k)} \\ &= \alpha_{p_1}^{(p_2)} \mathbf{y}_{p_1, i_{p_1, m}}^{(p_2)} + \underbrace{\sum_{\ell=1}^{N+1} \sum_{\substack{k \in D_\ell(m) \\ (\ell, k) \neq (p_1, p_2)}} \alpha_\ell^{(k)} \mathbf{y}_{\ell, i_{\ell, m}}^{(k)}}_{\in \mathbf{F}_q^h}\end{aligned}$$

- $\mathbf{Y}_{p_1}^{(p_2)}$ は正則行列 より、上式の右辺の第二項は以下のように書ける。

$$\underbrace{\sum_{\ell=1}^{N+1} \sum_{\substack{k \in D_\ell(m) \\ (\ell, k) \neq (p_1, p_2)}} \alpha_\ell^{(k)} \mathbf{y}_{\ell, i_{\ell, m}}^{(k)}} = \sum_{i=1}^h \beta_i \mathbf{y}_{p_1, i}^{(p_2)} \in \mathbf{F}_q^h$$

ここで、 $\beta_i \in \mathbf{F}_q$.

- そこで、 $\sum_{i=1}^h \beta_i \mathbf{y}_{p_1, i}^{(p_2)}$ を上記の \mathbf{f}_m の式に代入すると、

失敗する確率について (4/5)

$$\begin{aligned} \mathbf{f}_m &= \alpha_{p_1}^{(p_2)} \mathbf{y}_{p_1, i_{p_1, m}^{(p_2)}}^{(p_2)} + \sum_{i=1}^h \beta_i \mathbf{y}_{p_1, i}^{(p_2)} \\ &= (\alpha_{p_1}^{(p_2)} + \beta_{i_{p_1, m}^{(p_2)}}) \mathbf{y}_{p_1, i_{p_1, m}^{(p_2)}}^{(p_2)} + \sum_{\substack{i=1 \\ i \neq i_{p_1, m}^{(p_2)}}}^h \beta_i \mathbf{y}_{p_1, i}^{(p_2)} \quad (b) \end{aligned}$$

○ ベクトル \mathbf{f}_m を表す2つの式 (a) と (b) より、 $(b) = (a)$ とすると、

$$(\alpha_{p_1}^{(p_2)} + \beta_{i_{p_1, m}^{(p_2)}}) \mathbf{y}_{p_1, i_{p_1, m}^{(p_2)}}^{(p_2)} + \sum_{\substack{i=1 \\ i \neq i_{p_1, m}^{(p_2)}}}^h \beta_i \mathbf{y}_{p_1, i}^{(p_2)} = \sum_{\substack{i=1 \\ i \neq i_{p_1, m}^{(p_2)}}}^h \gamma_i \mathbf{y}_{p_1, i}^{(p_2)}$$

○ 右辺を左辺に移項する：

$$(\alpha_{p_1}^{(p_2)} + \beta_{i_{p_1, m}^{(p_2)}}) \mathbf{y}_{p_1, i_{p_1, m}^{(p_2)}}^{(p_2)} + \sum_{\substack{i=1 \\ i \neq i_{p_1, m}^{(p_2)}}}^h (\beta_i - \gamma_i) \mathbf{y}_{p_1, i}^{(p_2)} = 0$$

失敗する確率について (5/5)

- $Y_{p_1}^{(p_2)}$ は正則行列、すなわち、 $\mathbf{y}_{p_1,1}^{(p_2)}, \dots, \mathbf{y}_{p_1,h}^{(p_2)}$ は線型独立であるから、 $(\alpha_{p_1}^{(p_2)} + \beta_{i_{p_1,m}}^{(p_2)}) = 0$.

$$\alpha_{p_1}^{(p_2)} = -\beta_{i_{p_1,m}}^{(p_2)} \in \mathbf{F}_q$$

- 組 (p_1, p_2) が失敗するのは、 $\alpha_{p_1}^{(p_2)}$ の値として、 $-\beta_{i_{p_1,m}}^{(p_2)} \in \mathbf{F}_q$ が選ばれた場合のみである。

ゆえに、 $(\ell, k) = (p_1, p_2)$ において失敗する確率は $\boxed{1/q}$ である。

- 決定した M 個の $\alpha_\ell^{(k)} \in \mathbf{F}_q$, $\ell = 1, \dots, N+1$, $k \in D_\ell(m)$ に対し、失敗する組 (ℓ, k) が 1 組でも存在する確率は、たかだか

$$\boxed{M \times \frac{1}{q} < M \times \frac{1}{2M} < \frac{1}{2}}$$

ただし、 $|\mathbf{F}_q| = q > 2M$.

参考 WEB

<http://www.coding.ice.uec.ac.jp/>